

街あるき モデルコース



巻 徒歩で 気軽にまちなか戊辰史跡めぐり
空いた時間を利用して、戊辰戦争を通した、白河の街なか散策を気軽に行うコースです。

約70分

白河駅	徒歩5分	関川寺	徒歩5分	常宣寺	徒歩5分	皇徳寺	徒歩5分	脇木陣「柳屋」跡	徒歩5分	長寿院	徒歩10分	白河駅
-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	----------	------	-----	-------	-----

約2km

式 徒歩で ぐるっとまちなか戊辰史跡めぐり
城下町白河にある戊辰慰霊碑を求めて散策します。

約2時間

白河駅	徒歩10分	脇木陣「柳屋」跡	徒歩5分	長寿院	徒歩20分	鎮護神山	徒歩5分	小峰城	徒歩5分	白河駅
-----	-------	----------	------	-----	-------	------	------	-----	------	-----

約3.5km

参 車で 小峰城と旧奥州街道・寺院と慰霊碑めぐり
東西両軍が争奪戦をくり広げた小峰城と旧奥州街道沿いの寺院にある慰霊碑を訪ねます。

約2.5時間

白河駅	車で6分	稲荷山	車で2分	龍興寺	車で1分	常宣寺	車で2分	円明寺橋	車で1分	長寿院	車で1分	脇木陣「柳屋」跡	車で4分	聯芳寺	車で1分	仙台藩墓所	車で4分	鎮護神山	車で1分	小峰城	車で3分	白河駅
-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	------	------	-----	------	----------	------	-----	------	-------	------	------	------	-----	------	-----

約5.5km

四 車で 白河戊辰戦争の激戦地「稲荷山」を訪ねる
激戦地「稲荷山」を訪ねる、白河戊辰戦争を極めるコースです。

約3.5時間

白河駅	車で2分	皇徳寺	車で2分	脇木陣「柳屋」跡	車で6分	関川寺	車で6分	万持寺	車で6分	稲荷山	車で6分	龍興寺	車で1分	常宣寺	車で2分	白河藩大名家墓所	車で1分	円明寺橋	車で2分	長寿院	車で5分	白河駅
-----	------	-----	------	----------	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	----------	------	------	------	-----	------	-----

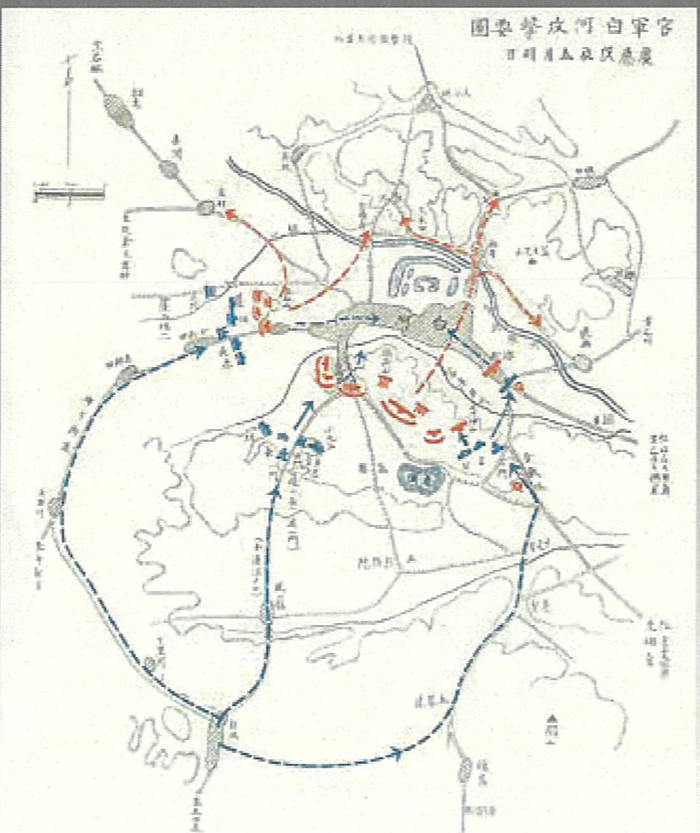
約6.5km

※所要時間はあくまで目安です。

小峰城（白河城）の攻防

慶応4年（1868）5月1日（新暦6月20日）暁、西軍は白坂から兵を三隊に分け進軍し、白河を包圍攻撃しました（下記の図参照）。小雨の降る中の激戦の末、小峰城は西軍に占領されました。小峰城陥落は西軍が東北の拠点を確保したことを意味し、東軍に深刻な影響をもたらしました。その後も小峰城包圍総攻撃を含む激闘が幾度となく繰り広げられ、7月28日（新暦9月14日）に砲声絶えました。

およそ100日間にわたる白河口の戦いにおける戦死者は、東軍927人、西軍113人とされています（記録によって相違）。白河の人々は戦死者を手厚く弔い、哀悼の気持ちを表した碑を建て、東軍・西軍を問わず、今も香華を手向けています。



この図は「官軍白河攻撃要図」というもので、慶応4年5月1日の白河口の戦闘図が描かれています。西軍は白河南方の白坂から兵を三隊に分け、中央の稲荷山、東方の桜町、西方の立石山から攻撃しました。東軍は敗れて、小峰城から撤退しました。
佐久間律堂『戊辰白河口戦争記』より作成

白河戊辰物語

復元した櫓に弾痕 ～小峰城跡～

初代丹羽長重に始まる7家21代の藩主が在城した小峰城は、江戸時代における代表的な平山城です。

慶応3年（1867）、阿部家が棚倉へ移封された後は藩が置かれず空城となっており、陸奥の関門である白河は鳥羽・伏見から始まった戊辰戦争の激戦地となりました。

慶応4年（1868）閏4月20日に会津藩兵が占拠した際に城郭は多くが焼失。5月1日西軍が奪還し落城。その後、東軍が白河奪還戦を繰り返しましたが果たせず7月28日ようやく砲声は止まりました。平成3年（1991）に復元された三重櫓には、激戦地稲荷山の古杉が使われており、西軍が放った弾痕を見ることができます。

激戦地 ～稲荷山（稲荷山公園）～

稲荷山は、奥州街道から城下に入る江戸側の入口にあたり、白河口の戦いにおいて東軍が最も重要視した陣地です。会津藩を主力とする東軍が守備していましたが、薩摩藩などの西軍に立石山方面と桜町方面を破られると一気に劣勢となり陥落しました。稲荷山に応援に向かった白河口の副総督・横山主税は稲荷山の裏で戦死しています。

現在稲荷山頂上付近は公園となり、西郷頼母の歌碑や、すぐ下には東西両軍約千名の戦死者の名が記された「戊辰の碑」、麓には会津藩戦死者の墓と慰霊碑、その向かいには長州藩と大垣藩の戦死者の墓があります。

関川寺 犠牲にされた豪商～常盤彦之助～

「阿部の常盤か常盤の阿部か」と呼ばれるほどの財力を有した常盤家は、白河の町年寄を務め、地方道中取締りの要職にある間屋でした。財政難に苦しむ藩を支え続けたことが利敵行為とみなされて、5月6日の真夜中薩摩藩士らに暗殺されました。大手門前広小路に晒された首は、かねて親しかった井筒屋の主人がその場から関川寺に運び、胴とともに火葬しました。井筒屋の罪は問われず、戦後家族が改めて空棺での葬儀を行いました。

万持寺 ～莞爾と笑ひ散りけり桜花～

会津戦争が終結した明治元年（1868）11月3日、安芸（広島）藩・加藤善三郎は国元への帰還中、矢吹宿の茶屋で長州藩に軍夫として徴発された農夫・真弓左衛門に荷物を白河まで運ぶよう命じましたが、断られたことに腹を立て斬殺しました。このため長州藩と広島藩の取り調べを受けて切腹を命じられ、万持寺本堂で割腹しました。行年25歳。辞世「莞爾と笑ひ散りけり桜花」

円明寺橋 ～血染めの谷津田川～

5月1日の激戦で捕虜となった東軍兵士は、首を刎ねられ新蔵や円明寺の橋から投げ捨てられたと言われ、橋の下を流れる谷津田川は血染めの川と伝えられています。

発行・編集／白河戊辰150周年記念事業実行委員会（白河市役所内）
〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1
TEL 0248-22-1111(代) FAX 0248-22-1143
<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>



甦る「仁」のこころ
白河戊辰戦争一五〇年

白河戊辰戦争

慶応4年、戊辰戦争勃発

今から約150年前。

慶応3年（1867）10月、15代将軍徳川慶喜が大政奉還を行うと、薩摩・長州藩を中心とする勢力は12月9日「王政復古の号令」を実行し、天皇のもと政治を行う新政府を樹立しました。

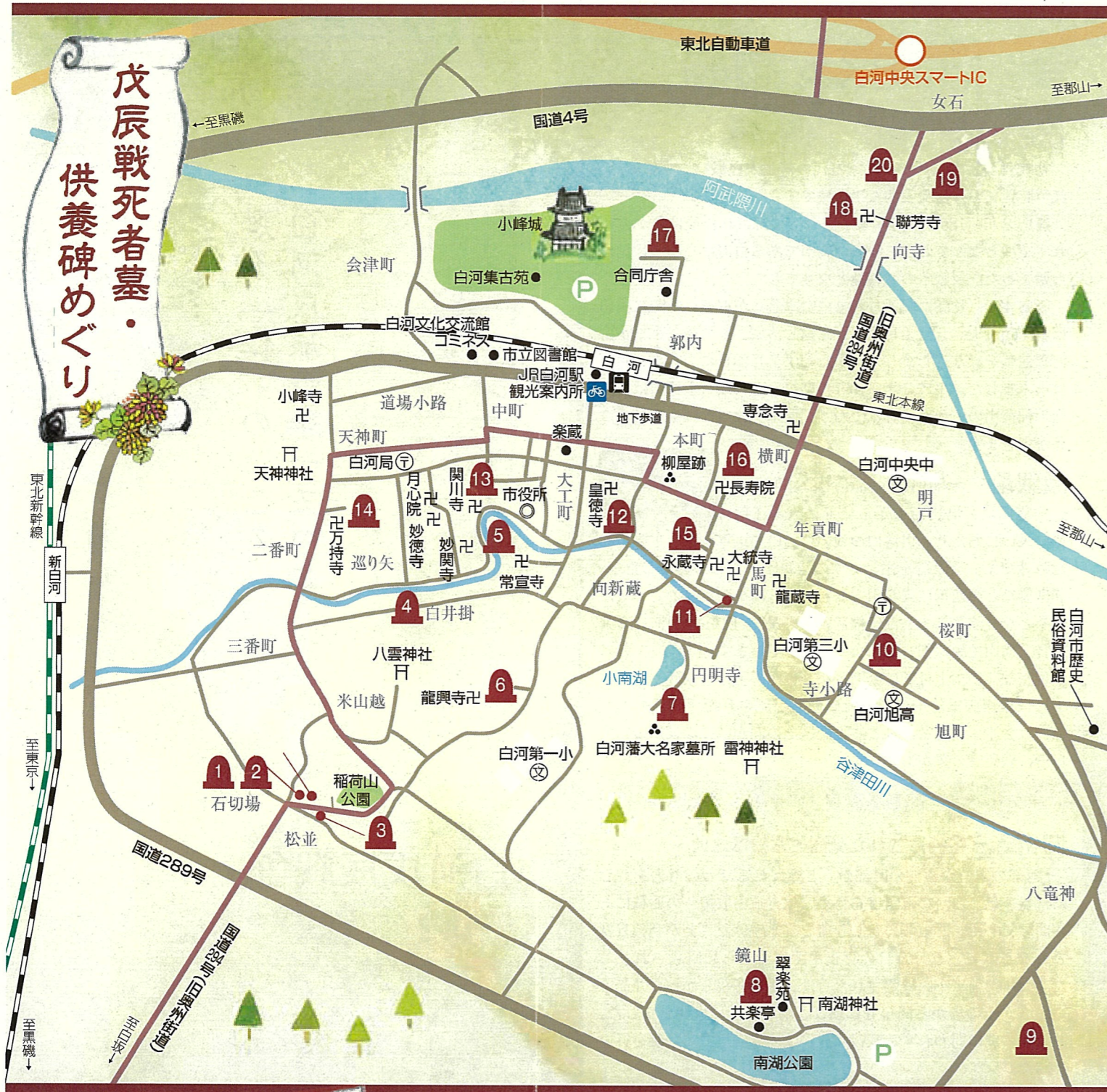
しかし、慶喜側の巻き返しに危機感を抱いた薩摩・長州藩等は、慶応4年（1868）1月3日、京都で旧幕府勢と戦いを起こし、戊辰戦争が始まりました。

京都で勝利した新政府軍は、朝敵となった慶喜や会津藩主松平容保らの討伐に向かいました。江戸城は4月に開城しますが、東北では会津藩や会津救済を訴える奥羽諸藩との戦争になりました。

東北の入口白河は、慶応2年以降藩がなく、幕府領から新政府領になっていた閏4月20日（新暦6月10日）、白河を防衛の生命線と考えた会津藩が進軍、奥羽諸藩も集結し戦争が始まりました。

新政府軍は5月1日、激戦の末白河を奪還しますが、7月中旬まで約100日間、新政府軍（西軍）と奥羽越列藩同盟（東軍：東北25藩・越後6藩）の諸藩が、白河をめぐる激しい争奪戦をくり広げました。

この「白河戊辰戦争」では、両軍あわせて千名をこえる戦死者が出たとされ、明治という新時代の幕開けに刻まれた、忘れてはならない歴史といえます。



**戊辰戦死者墓・
供養碑めぐり**

1 (会津藩) 戦死墓・銷魂碑 (松並) 東

戊辰戦争白河口の戦いの中で最大の激戦地であった稲荷山の碑には、会津藩若年寄・横山主税、海老名衛門ら304名の戦死者の名が刻まれています。

2 (会津藩) 田邊軍次君之墓 (松並) 東

旧会津藩士田邊軍次は、会津藩が家名再興を許された斗南の地(青森県下北半島)へ移住しました。しかし会津藩が敗れ塗炭の苦しみを強いられるのは、白河の戦いで白坂の大平八郎が西軍の道案内をしたためだと考え、戦後2年が経った明治3年(1870)ひと月かけて白坂宿にたどり着き、大平を斬殺しました。田邊はその場で切腹しましたが、大平の養子直之助は仇である田邊を白坂観音寺に葬り墓を建立しました。のちに白河会津会によりこの地に改葬されました。

3 長州大垣藩戦死六名墓 (松並) 西

慶応4年閏4月25日の白河口の戦いで戦死した長州、大垣藩将兵6名が用われている墓。明治9年6月に明治天皇が、同41年9月には東宮嘉仁親王が立ち寄り御焼香されています。

4 無縁塚 (白井掛) 東 西

5 (棚倉藩) 阿部内膳之墓・会津藩戊辰戦死十二士之墓・南無阿弥陀仏 (向新蔵・常宣寺) 東

阿部内膳は、棚倉藩家老・阿部正脩(秋風)の子で、白河口の戦いで桜町口を守った16人組(または誠心隊)隊長。内膳は甲冑に身を固め、槍や弓矢で戦う隊士を指揮しましたが、被弾して戦死しました。後に「仙台島に十六ささげ なけりや官軍高枕」とうたわれ、ゲリラ戦を得意とした仙台藩の細谷十太夫率いる衝撃隊(カラス組)と共に西軍に恐れられました。※十六ささげは豆の一種で16人組をさします。

6 会津藩海老名衛門君碑銘・戦死塚 (向新蔵・龍興寺) 東

5月1日の龍興寺周辺での戦死者を祀った戦死塚と、この戦いで自刃した会津藩軍事奉行・海老名衛門季久の慰霊碑があります。季久は、敗戦を悟り龍興寺の山林中で切腹したと伝えられています。

7 二本松藩士慶応戊辰役戦死之霊 (円明寺・丹羽長重廟) 東

白河藩大名墓所(丹羽長重廟入口)にあり、二本松藩士23人の霊を祀るため、旧二本松藩と白河町の有志で組織された丹羽長重公追遠会が建立しました。碑には戦死者の名が刻まれています。現在は、本町の長寿院が供養を行っています。

8 (阿部藩) 戦死碑・鎮英魂 (南湖・鏡山) 東

棚倉藩戦死者の霊を祀るため、明治17年(1884)に旧棚倉藩の重臣・平田文左衛門が敬義会を組織して建立しました。大正3年(1914)には旧藩士と白河の有志が白河鎮英魂保存会をつくり、現在に至るまで秋の彼岸に慰霊祭を行っています。

9 戊辰戦死之碑 (八竜神) 東

10 戊辰戦死之碑 (寺小路) 東

11 南無阿弥陀仏 (馬町) 東

白河口の戦いの中で最大の激戦地であった5月1日の翌日に西軍によって処刑され、谷津田川に流された東軍将兵及び白河領民の霊を祀った慰霊碑。この碑と同じものが以前、谷津田川にかかる新橋のたもとにありましたが、現在は常宣寺に移されています。

12 菊地央(おう)の墓・戦死人供養 (大工町・皇徳寺) 東

元津軽藩士の菊地央(おう)は慶応3年6月以降の時期に新選組に入隊。翌年閏4月25日白河口の戦いでは、新選組近藤局長の仇で武川直枝(清原清)を討つ命を受けたと言われ、22歳の若さで戦死しています。「戦死人供養の碑」と並んで建っている墓標には、側面に菊地央五郎、前面に「誠忠院義勇英剣居士」と刻まれています。

13 棚倉藩小池理八の供養碑・仙台藩石川大之進の墓 (愛宕町・関川寺) 東

14 安芸藩加藤善三郎の墓 (巡り矢・万持寺) 西

15 戦死供養塔 (本町・永蔵寺) 東

16 慶応戊辰殉国者墳墓・白河役陣亡諸士碑 (本町・長寿院) 西

戊辰戦争白河口の戦いにおける西軍各藩の戦死者が眠っている曹洞宗長寿院。墓は全部で116基(薩摩藩29基、長州藩30基、土佐藩18基、大垣藩13基、館林藩7基、佐土原藩19基)ありますが、大正期に薩摩藩の墓所は小峰城東側の鎮護神山(17)に改葬されています。現在は87基の墓があり、墓石には藩名や故人の名が刻まれています。

17 戊辰薩藩戦死者墓 (郭内・鎮護神山) 西

小峰城本丸の東にある鎮護神山には、三春・磐城平胡麻沢(13名)、花見坂(松並)(7名)、長寿院(18名)に埋葬されていた薩摩藩の戦死者を合葬した墓があります。白河口の戦いの激戦地となった稲荷山の戦いで、新選組を含む東軍藩兵に討ち取られた武川直枝(元新選組隊士・清原清)の名も刻まれています。

18 福島藩士十四人碑 (向寺・聯芳寺) 東

戊辰戦争で亡くなった福島藩士14名の名が刻まれた慰霊碑で、明治21年(1888)に建立されました。

19 遊女しげ女の碑 (女石) 東

越後三条生まれのしげは白河の妓楼坂田屋に売られ、性格が温和で皆にかわいがられました。長州藩士で奥羽鎮撫総督下参謀・世良修蔵は、小峰城に入城した慶応4年閏4月9日、会津藩攻撃の命を受けているとき、坂田屋の遊女しげをひいきにしました。世良はしげの機転によりこの地が危険であると察し、閏4月18日白河を脱しました(閏4月20日に福島で斬首)。明治2年、戊辰戦争の敗北は、しげが世良を逃がしたと逆恨みした会津藩士がしげを殺害しました。その会津藩士は坂田屋の用心棒に殺害され、その仇を討たれたと伝えられています。

20 仙台藩士戊辰戦歿之碑、戦死供養塔 (女石) 東

女石は、会津街道(国道294号)と奥州街道(国道4号)の分岐点で、東軍の小峰城奪還戦で激戦が展開された場所です。白河口の戦いで戦死した坂本大炊ら仙台藩士150余名の慰霊碑と、明治2年地元の有志らにより建立された戦死供養塔があります。ここには市内田町、向寺、根田、大谷地、金勝寺、飯沢、長坂等における戦死者が埋葬されています。

脇本陣「柳屋」跡

江戸時代、奥州街道沿いの本町には約50軒の旅籠が軒を連ね、大名や幕府の役人が宿泊する本陣、脇本陣が置かれていました。旅籠として栄えた本町の面影を今に伝えるのが「脇本陣柳屋跡」です。
脇本陣柳屋は、幕末の戊辰戦争の際に、新選組・山口二郎(斎藤一)隊長をはじめ隊士約100人が宿泊した場所です。また、蔵座敷は文化元年(1804)の建築で、明治14年(1881)明治天皇が東北・北海道を巡幸した際に、火災に遭った本陣に代わり、ここを休憩・宿泊所として利用しました。蔵内部には、違い棚、床の間、付書院などを備えた書院があり、つるべ井戸(明治天皇御膳水跡)も残されています。
また、旧奥州街道に面して建つ建物は、明治期の飴工場(百貨店建物)として建築された歴史的建造物で、ファザード(建物正面)が洋風にデザインされています。

